

に関する情報を集め、より広く市民に周知する必要があります。



市民団体による森林づくり活動（中野方町）

課題6 効果的な森林施策
効果的な森林管理を行うためには、既存の林道では機能が不十分であることから、今後は林道の再整備や、高性能林業機械の導入も必要となります。

課題7 森林の適切な保全
森林の多面的機能を効果的に発揮させるためには、期待される機能ごと（水土保全林・木材生産林・森林と人の共生林など）に区分し、適正に保全する必要があります。

課題8 森林空間利用の促進
森林空間を整備し、保健・レクリ

ます。

間伐の実施や、木造住宅建築などによる木材利用をすることが、森林の機能をさらに高めるために必要です。「次の世代へつなげる森林づくり」を推進するため、日常生活から国産材・地域材の利用を心掛けてください。



林研クラブによる木工教室（山岡町）

えなの森林づくり

基本計画策定記念事業

①『見て・歩いて・考える緑のダムと健康な森づくり』

現地見学と講演会を通して、えなの森と水と暮らしの在り方について考えてみましょう。

とき 9月6日(土)午後0時半 5



笠置山の森林散策道（中野方町）

エーション活動を充実する必要があります。

課題解決に向けて

緊急を要する課題については、本年度から実行しています。今後課題を解決するため「えなの森林づくり推進委員会」では、来年度末までに全体会議や分科会などで、具体的な取り組み方法を検討し、実施していきます。

市民の皆さんへ

間伐と木材利用が必要ですよ

地球温暖化防止を目指す「京都議定書」の約束期間（第一期2008年から2012年の5年間）が始まりました。1990年比で温室効果ガスを6割削減するため、炭素吸収源である森林の役割が注目されています。

時

ところ 中野方コミュニティセンター

第一部 坂折棚田・中野方ダム周辺森林見学（午後1時）

第二部 (1) 講演「緑のダムと健康な森づくり」(午後3時)

講師＝蔵治光一郎氏(東京大学大学院 愛知演習林講師) (2) 笠置山森の健康診断報告会

問い合わせ 山里文化研究所 ☎(0573) 68 6016

②『ツリーライミング(R)体験講座』

子どもたちに自然の大切さを知ってもらうための講座です。ぜひ、ご参加ください。

とき 9月28日(土) 午前の部 午前9時 午後の部 午後1時

ところ 市立恵那病院裏の雑木林
定員 午前・午後の部各20人(保護者同伴)

参加費 500円
申込方法 小学校名 学年 氏名 連絡先 を記入し、メール、

ファクス、はがきで応募(9月19日(金)必着)

申し込み・問い合わせ 〒509 7292 (住所不要) 林業振興課

(内線526) ☎26 2861
ringyoushinkou@city.ana.lg.jp

インタビュー
森林づくり最前線

森林保全のボランティア団体、NPOなどで活躍されている森岡さんと杉野さんに「森林づくりに対する思い」を伺いました。



美濃の森造隊 森岡哲郎さん

森岡さんは、人工林の整備を行うボランティアグループ「美濃の森造隊」の隊長として、昨年の2月から鍋山(長島町)を中心に活動しています。

月1回程度の間伐を4、5人のメンバーで実施。人工林の間伐のほか間伐材を利用して、椅子やテーブルの作製、大学生や小学生への林業体験指導も実施しています。

今後は、間伐材を使った小屋やツリーハウスの作製など、新たな間伐材の利用方法を探りながら、活動を進めていくそうです。



奥矢作森林塾 杉野賢治さん

杉野さんは、NPO法人奥矢作森林塾(大島光利理事長)で、矢作ダム管理事務所との連携により、矢作湖にたまる年間600立方メートルの流木を、間伐材の燃料で炭にしています。

これらの炭は、主に住宅用(床下調湿炭)、土壌改良などに使用されています。

炭は1立方メートルで約1トンの二酸化炭素を吸収し、燃やさない限り永久に炭素として固定されます。

また昔ながらの方法で、カナギ炭の生産や販売のほか、炭やき・間伐・原生林散策・カーヌーなどのエコツアーも実施しながら、奥矢作レクリエーションセンターの委託管理業務も行っています。

「森林づくりに対する思い」
「地球は子孫から借りたもの」と

「森林づくりに対する思い」

間伐作業は、肉体的に大変な作業です。しかし作業が進むにつれ、息苦しく暗かった山林にさわやかな空気が流れ始め、太陽の光が届くのを直接肌で感じたとき、全身に快感が走ります。

思い切り汗を流した後のさわやかさは、間違いなく人をとりこにしています。

そして作業の結果は目に見える形ではつきりと残り、森づくりをしているという大きな充実感を味わえます。

こうした、ほかでは味わえない山仕事の楽しさを、多くの人にも伝えたいのですが、言葉ではなかなかそれができません。

ですから皆さんには、実際に一度、間伐作業で汗を流してみることがをお勧めします。われわれ「美濃の森造隊」が、喜んで皆さんの森への第一歩をご案内します。

ブログ「美濃の森造隊だより」
<http://blog.goo.ne.jp/minomoriouzou>

という言葉があります。

わたしは、毎日その意味を考えながら仕事をしています。原生林へ足を踏み入れた途端に感じる心地良さは、地球本来の姿です。

46億年かけて地球が造り上げてきたこの環境を、わたしを含めた人間は、たった100年で台無しにしてしまいました。

わたしにできることは、間伐して炭にすることです。埋土種子と呼ばれる命の源が、真っ暗な人工林床に眠り、光が届くのをじっと待っています。

祖父母が植えてくれたスギ・ヒノキですが、原生林のような森林に戻すには、まず間伐をすることが必要です。適切な本数まで間伐したら、その後は、地球の自己再生能力に任せればよいと思います。

気の遠くなるような仕事ですが、実は簡単なことだと思えます。たくさんの方の協力があれば、今からでも十分に間に合います。

ブログ「炭やきは地球を救う」
<http://sumiyaki.blog.ocn.ne.jp/kenji/>